

旧

帝国大学（北海道、東北、東京、名古屋、京都、大阪、九州の各大学）の親ほくと知識交流の場として計画され、1928年（昭和3年）に建設された学士会館。

設計は、デザイン・コンペ1等選ばれた高橋貞太郎の案が採用された。高橋は、日本橋高島屋などを手がけたことでも知られている。

建物全体の構造設計は、高橋の師でもある佐野利器^{としたか}が担当。学士会館は、関東大震災後に建築された震災復興建築でもあるため、当時の日本耐震工学の第一人者であった佐野により、耐震・耐火を目的とした鉄骨・鉄筋コンクリート造りとされた。

外観は、1階部分は白い石造タイルに、2〜4階部分は昭和初期に流行したスクラッチタイル（細い溝が刻まれた赤褐色や淡黄色のタイル）に覆われている。

正面玄関は日ノ出石で組まれた半円のアーチを描き、格調高い印象を与える。アーチと頂上部分の要石には、知恵の象徴としてオリブの装飾が施され、学生たちの知識交流の場であることを表わしている。

入口の真ちゅう製のノブは、建築当時のもの。細部まで毎日スタッフに磨き上げられ、変わらない輝きを見せる。エレベーターホールには、同時代にオーストリア・ウィーンの建築で流行した

第21回

温故
知新

レトロ建築を歩く

学士会館 旧館

DATA

名称 学士会館 旧館
所在地 東京都千代田区神田錦町3-28
完成 昭和3年
設計者 高橋貞太郎 佐野利器

という「テラゾー（人造石）」が貼られた十二角形の柱が並ぶ。

往時の姿が最も残されているといわれるのが、メインバンケットルームだ。高い天井やシャンデリア、美しい漆喰飾りに加え、会場の奥にはオーケストラバルコニーが設えられ、往時の華やかさと荘厳さを感じさせる。

残念なことに学士会館はことしいっぱいで営業終了となる。

昭和12年に増築された新館は取壊しとなるが、旧館部分は「曳家保存（解体せずそのまま移動する工法）」したうえで、耐震工事をし、今後も保存していく計画だという。



建築当時から美しく
光り輝くドアノブ



旧館の正面玄関。日ノ出石で造られたアーチが美しい



テラゾー（人造石）が貼られた柱が
印象的なエレベーターホール



建設当時の姿を色濃く残しているメインバンケットルーム